

せつ き 石 器

1 (旧石器時代)

大野城市教育委員会



左から黒曜石・安山岩・チャート。下は黒曜石の原石と安山岩の原石

1. 旧石器時代とは

旧石器時代とは、今から約1万3千年以上前の時代を指します。当時の人々は、土器を持たず、石や木、あるいは骨製の道具を使用し、主に狩りや木の実などを採集して生活していたと考えられます。これらの中で木や骨製の道具は、腐りやすく遺跡において発見されることは非常に稀です。したがって旧石器時代の生活を考える上では、腐ったり壊れたりしにくい石器が重要になります。

2. 石器とは

石器とは、人が石に手を加えて作った道具のことです。現代でも砥石や石臼といった形で石器は使われています。しかし、旧石器時代の石器の用途は今よりはるかに多種多様なものでした。例えば、ナイフやハンマー・斧といった狩猟や土木作業の道具があげられます。これらの道具は現代では金属製品にその役割を譲っていますが、当時は金属にも劣らない切れ味をもった石によって作られていました。また、旧石器時代の石器は石を割って作られた打製石器と呼ばれるものですが、石器の材料となる石はどんな石でもよかったという訳ではありません。大野城市で出土した石材の種類は、黒曜石・安山岩・赤色や白色や青色のチャートといったものがあります。これらの石は色や触感は様々ですが、思った形に割れやすく、割れ口が鋭いといった特徴を持っています。そして旧石器時代の石器にはこのような特徴を持つ石が多く使われました。



大野城市では、現在のところ旧石器時代の明確な遺跡は確認されていません。しかしながら、旧石器時代の石器は出土しています。これらの石器を出土する遺跡は、主に大城山（四王寺山）西側の斜面に集中しています。（釜蓋原遺跡・雉子ヶ尾遺跡など。）

①・②は、台形石器・台形様石器と呼ばれるものです。この石器は下にあげているナイフ形石器の一種です。ほぼ台形の形をしているのが特徴となる石器で、台形の一辺を刃として使用します。

③～⑤はナイフ形石器で、その名が示すように切ったり裂いたりするための道具です。特徴としては、鋭い切れ口の一部を刃として残し、他の部分を刃潰し加工によって手に持っても手が切れないように工夫されています。

⑥は細石刃核です。細石刃を作るための特殊なもので、一定の剥片を得るために意識的に形作られ、効率良く細石刃を得ることができるよう工夫されています。この細石刃核の核とは石核の核を指し、石核とは石を割って石器を作るための本体、核となる石のことをいいます。

⑦・⑧は細石刃（マイクロブレード）です。細石器と呼ばれる細かい石器の一種で、非常に小さな石の刃のことをいいます。この細石刃は、木製や骨の柄の両側に埋め込まれて使用されていたと考えられています。

⑨・⑩は剥片といい、石を割って石器を作る途中のものです。⑨を横長剥片、⑩を縦長剥片といいます。このような剥片を加工してナイフ形石器などの石器を作っていきます。

以上のような石器は、旧石器時代を大きく前期・中期・後期と分けた中の後期旧石器時代に属します。後期旧石器時代は約3万年前から縄文時代の始まる1万3千年前くらいの期間で、3～5のようなナイフ形石器が特徴になります。大野城市では、前期および中期旧石器時代の遺物は確認されていません。よって、人類の営みを確認できるのは後期旧石器時代が最古ということになります。